

揚

州八怪は、中国の清朝18世紀に揚州という都市を舞台として活躍した、個性豊かな書画家8人をまとめた呼び名です。塩商の活躍によって経済的に活況を呈した揚州には、たくさんの芸術家たちが集い、競うようにその才能を花開かせました。書画の分野では、古典に学びながらも新鮮な感覚を示す者たちが多くあらわれ、後世の批評家は代表的な8人を選び、伝統にとらわれない異才を称えて「八怪」と呼びました。本展では、揚州八怪に選ばれた書画家の作品を中心として、関係作品もあわせて彼らの魅力に迫ります。

序章

絢爛たる文化都市—揚州

清朝中期の揚州の繁栄は、江南巡幸の際にこの地を視察した乾隆帝をも驚かせたといわれます。揚州八怪活躍の舞台となった都市の文化的な華やきを、大家の作例とともに俯瞰します。



第一章 先駆者たちの芸術

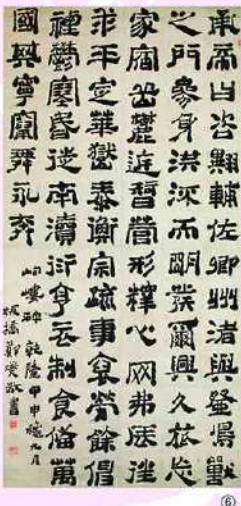
揚州八怪登場の前夜、彼らの芸術を導く先駆者たちの活躍がありました。揚州八怪の芸術に大きな影響をもつた石濤や朱耷（八大山人）など、明末から清初にかけて活躍した作家を取り上げます。



第二章 揚州の怪傑たち

揚州の怪傑たち

「揚州八怪」にエントリされたのは金農、鄭燮を筆頭に、黄慎、李鱓、李方膺、汪士慎、高翔、羅聘、高鳳翰、陳撰、華岳、边寿民、楊法、関貞、李慈の15人。このうち12人の作品が会場に集結。残りの3人も画像とともに紹介します。



第三章 揚州の文化人ネットワーク

揚州八怪が当代の芸術を席巻したのは、彼らの芸術を理解し、高く評価した文化人の存在があったからに他なりません。揚州八怪の広まり、また後世へと橋渡しされていく様相を追います。

終章

揚州八怪の遺伝子

揚州を舞台に鮮やかに花開いた「八怪」たちの芸術は、後世の書画家に大きな靈感を与え、現代まで継承されています。大家に受け継がれた「八怪」の面影をたどり、本展の締めくくりとします。



◆開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
◆観覧料（税込）：一般1,500（1,300）円、高大生1,000（800）円

※（ ）内は前売りおよび20名以上の団体料金 ※前売券は6月11日（金）まで販売。※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料（要証明） ※大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、団体のご利用をお断りする場合があります。

◎チケットの主な販売場所：ローソンチケット（Lコード：51824）、セブンチケット、イープラス

①袁耀《真山水图轴》2幅のうち 清・乾隆37年（1772） 京都・泉屋博古館蔵 ②石濤《東坡時序诗意图轴（局部）》 清・17-18世紀 大阪市立美術館蔵 ③金農《録書六言诗横披》 清・乾隆27年（1762） 東京国立博物館蔵（Image: TNM Image Archives） ④羅聘《净名居士像轴》（部分） 清・18世紀 澄懷堂美術館蔵 ⑤高鳳翰《山水花卉册（选）》 清・雍正12年（1734） 大阪市立美術館蔵 ⑥鄭燮《响螺碑文轴》 清・乾隆29年（1764） 個人蔵 ⑦阮元《行书七言联》 清・18-19世紀 大阪市立美術館蔵 ⑧趙之谦《富貴图轴》 清・同治11年（1872） 東京国立博物館蔵（Image: TNM Image Archives） ⑨汪士慎《江南残梅图轴》 清・18世纪 上海博物馆蔵

あべのハルカス美術館との相互割引
本展観覧券（半券可）の提示で「グランマ・モーゼス展」（4月17日（土）～6月27日（日））と「ポーラ美術館コレクション展」（7月9日（金）～9月5日（日））の当日券を100円引きにてご購入いただけます。（1枚につきお一人様1回限り有効、他の割引券との併用不可）

各作品の展示期間等の詳細につきましては、公式ホームページ（<https://yoshu8.com>）にてご案内いたします。

大阪市立美術館
Osaka City Museum of Fine Arts（天王寺公園内）
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82
JR・Osaka Metro天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車、北西へ約400m
<https://www.osaka-art-museum.jp>
お問い合わせ＝
大阪市総合コールセンター なにわコール
Tel:06-4301-7285
（年中無休：午前8時～午後9時）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、掲載内容に変更が生じる場合があります。

